

Al Vi Kara

N-ro 99, februaro 2010



Nia societo partoprenis en la granda ekspoziciaro en Miyako-Messe en la 20a de decembro 2009, al kiu aliĝis ĉ. 150 volontulaj grupoj en Kioto.

Ni vigle klarigis pri Esperanto al multaj homoj, precipe junuloj. Vidu la 8an paĝon.



Ejo por nia societo

ENHAVO

エスペラント会館で行なわれているエスペラントの会合	3 p
Ni vigle agadas en Kioto ! (活動報告)	
エスペラント初級講習会 昼の例会	5 p
夜の例会	6 p
第96回日本エスペラント大会	
10月21日(水)例会にドイツからのお客様	
第10回中国・四国エスペラント大会	7 p
11月25日(水)例会にフランスからのお客様	
第3回ボランティア・市民活動フェスタに出展	8 p
2009年エスペラントまつり(関西エスペラント連盟主催)	9 p
京都エスペラント会 2010年次総会	
新会員の自己紹介	10 p
野田 淳子 さん	
高木 宣幸 さん	
今号のテーマ「私の好きな本」	
山内 利朗 さん 『英語で京都を案内できますか?』	11 p
村上 正彦 さん 『Ĉu vi parolas esperante?』 など多数	12 p
相川 節子 さん 『Vage tra la dimensioj』	13 p
光川 澄子 さん 『La Espero』	
『長谷川テル 日中戦争下で反戦放送をした日本女性』	14 p
森川 和徳 さん 『風の谷のナウシカ』	16 p
後藤 美和 さん 『Enkonduko en Budhismon』	
『Esprimo de sentoj en Esperanto』	17 p
ABZ kiel gastigi 連載(3) (田平 正子)	18 p
Pri Utakartoludo en novjaro (KAWAGOE Kan)	23 p



Kato varmiĝas en kotaco,
japana tradicia varmigilo

エスペラント会館で行なわれているエスペラントの会合

相川 節子

94号の「京都のエスペラント会館について」という投稿の中で、次のように書きました。

一方では、横浜での世界大会に向けて、関西エスペラント連盟主催の「会話講座」を毎月ここで開いたり、連盟の個人会員の会費を預けに来る方があったり、連盟が出版する教材CDの録音にここを使ったりと、連盟の出先機関のような役割もさせてもらっています。また、有志でエスペラントの勉強会をしておられるグループのご利用もあります。

ここでふれた「有志でエスペラントの勉強会」について、今回は具体的にご説明します。

いや、その前に、まず京都エスペラント会の会合について。

当会は、長い間毎週一回、平日の夜に例会を開いてきましたが、2009年12月から、昼間の例会も始まりました。毎週水曜日、午後2時から4時までです。もちろん会員ならどなたでも参加できます。夜は出にくいので例会はごぶさたという方、ぜひ昼の例会においでください。



夜の例会

では本題。

エスペラント会館で行なわれている自主学習会は4件あります。

いずれも京都エスペラント会とは直接関係のない個人的な活動で、運営費もそれぞれ独立採算です。したがって、当会会員であるかどうかに関係なく参加できます。

(1)エスペラントおしゃべり会

田平正子さんが主催の学習会です。テーマはその都度いろいろですが、エスペラントだけで話すことが特徴。参加者は平均4人ぐらいでしょうか。京都に外国人エスペランティストが滞在される時は、水曜日の京都エス会の例会のほか、この

会への出席もお願いしています。実際、よく外国人が参加されます。毎週月曜日の夜 7 時から 9 時まで。

(2) 子連れ学習会

後藤美和さんが主催の学習会です。「お子さん連れ歓迎」が特徴ですが、もちろんおとなだけの参加もできます。参加者は平均 3 人。今は『華岡青洲の妻』のエスペラント訳の学習が中心で、ほかには La Movado など雑誌の記事をいっしょに読んだり、時にはエスペラントを離れて子育て談義になることもあります。「こどもが騒いでもむずかっても、おおらかに見守れる」方ならどなたでも参加できます。毎週月曜日の午前 10 時半から 12 時まで。

(3) 聖書をエスペラントで読む会

これは相川が主催しています。参加者は 7 ~ 8 人で、そのうち 3 人がキリスト者です。今のところ、創世記を 1 回に 2 ~ 3 章ずつ読んでいます。毎月第一月曜日の午後 1 時から 4 時まで。(5 月だけは第 2 月曜です)

(4) Rondo Duopo

藤本達生・ますみご夫妻が指導しておられる、内容の濃い学習会で、前号の特集で後藤さんがふれています。これは不定期です。

上記のうち定期的に行なわれている学習会を、参加費も含めて一覧表にしました。La Movado の連載記事 Jen nia rondo に載った時の号数も入れていますので参考にしてください。

この表の学習会はどれも飛び入り歓迎ですので、ご遠慮なくおいでください。

	日時	参加費	La Movado 記事
エスペラントおしゃべり会	月曜午後 7 時 ~ 9 時	その都度 会場費を ワリカン	2008 年 8 月号
子連れ学習会	月曜午前 10 時半 ~ 12 時	1 回 3 0 0 円	2008 年 12 月号
聖書を読む会	第 1 月曜午後 1 時 ~ 4 時	1 回 3 0 0 円	2009 年 6 月号



Ĉarma paro en Pufefesto

Ni vigle agadas en Kioto !

このコーナーは、京都エスperanto会の月刊の活動情報紙「事務局通信」(川越 幹さん編集)やブログ (http://d.hatena.ne.jp/esperanto_kioto/) の記事を元に、主な活動を紹介するものです。

エスperanto初級講習会 昼の例会

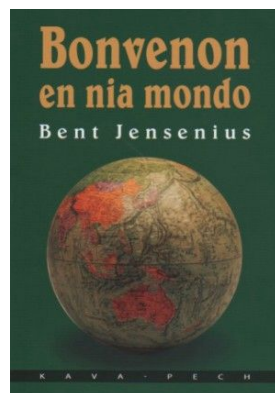
- ・ 日時 2009年10月7日～11月25日、毎週水曜日
午後2時～4時
- ・ 場所 エスperanto会館(京都市下京区西洞院通五条上る西側)
- ・ 費用 全期間 1200円+教材費実費(500円前後)
- ・ 講師 相川節子さん
- ・ 教材 ロンド・マーヨのパワーポイント資料
- ・ 宣伝 ウェブページ、個人宛の案内状(新聞等には載らず)
- ・ 結果 昼にお二人が来ていただき、全期間終了。
お二人は当会に入会していただきました。お二人の自己紹介は10ページに載っています。
現在は毎週水曜日午後2時～4時に昼の例会として継続。テキストは”Ĉu vi parolas esperante?”



左から、相川、成田、光川、高木[新入会] 野田[新入会](敬称略)

夜の例会

- ・日時 毎週水曜日 午後7時～9時
- ・場所 エスペラント会館
- ・内容 2009年9月までに『エスペラントはこうして話す』（藤本達生著）の輪読・解釈実習が終了し、10月からは『Bonvenon en nia mondo』（Bent Jensenius 著）の輪読・解釈実習を行っています。



第96回日本エスペラント大会

- ・日時 2009年10月10日(土)～12日(月)
- ・場所 山梨英和大学(山梨県甲府市)
- ・参加者 381人実出席者234人、不在参加者114人
当日欠席者33人。外国からは、ドイツ、フランス、韓国、台湾、香港から計11人
- ・当会関係の参加者(五十音順、敬称略、*は不在参加)



日本大会のシンボルマーク

- 相川 節子*、川越 幹*、川西 徹郎、田平 正子、田平 稔、藤本 達生、藤本 ますみ、光川 澄子、村上 正彦*、森川 和徳、山本 鳩江
- ・当会関係者の活動
 - *10日 15:45～17:25 Azia Agadoにて、田平さんが司会。
 - *11日 9:05～10:30 JEI 総会に、JEI 理事の田平さんと森川さんが参加。
 - *11日 13:30～15:00 ミニ大学で森川さんが「感電防止」について発表。
 - *12日 9:00～10:25 エスペラント学習に関して、藤本達生さんが講演。

10月21日(水)例会にドイツからのお客様

De 7:00 ĝis 9:00 p.m. en la 21-a de oktobro (merkredo), ĉe Esperanto-Kaikan ĉeestis 13: el nia societo s-roj Kobasi, Nakagawa, Morikawa, Yamamoto, s-inoj Mitukawa, Tahira, Aikawa; el proksimaj societoj ges-roj Tagahara, s-ro Ukita, s-ino Huzikawa. Kaj la plej gravaj ĉeestantoj estis ges-roj Sachs el Germanio.

Unue ni prezentis nin unu post alia. Ges-roj Sachs parolis ankaŭ pri lingva problemo de Eŭropa Unio. Poste ni aŭskultis lian parolon pri vivo en Afriko.

S-ro Sachs longe loĝis en Afriko kaj agadis kiel esploristo en veterinara kampo. Li montris diversajn fotojn per projekciilo, kiuj montras lian vivon kaj

agadon en Afriko. Li vivis kun sia edzino kaj tre junaj infanoj inter sovaĝaj bestoj. Interalie li esploris pri parazitaj en la korpo de antilopoj.

En Afriko al multaj homoj mankas proteino. Celo de lia esploro estas scii, kiel oni povas utiligi la sovaĝajn bestojn kiel nutraĵon. Ambaŭ geedzoj tre interese parolis kaj ni ĉiuj fervore aŭskultis.

今日はドイツの Sachs 夫妻を迎えての例会です。最初に順番に自己紹介。EU の言語問題の話も出ました。

Sachs さんは獣医学の分野の研究者で、長く家族でアフリカに住んでおられました。その時の生活について、プロジェクターで写真を見せながらいろいろ話してくださいました。研究テーマのひとつは、カモシカ類の寄生虫の調査だったそうです。アフリカには、栄養不足で低タンパクの人たちがたくさんおられるので、野生動物の肉をどうしたら安全な栄養源にすることができるかというのが、その研究の目的でした。

ご夫婦とも話し上手で、みなひきこまれて拝聴しました。 (相川 節子)

第 10 回中国・四国エスペラント大会

- ・日時 2009 年 11 月 21 日(土) ~ 22 日(日)
- ・場所 国民宿舎 桂浜荘 (高知市)
- ・参加者 実参加者 38 人 (うち一般参加者 2 名) 不在参加者 11 人
- ・当会から、田平 正子さんと森川 和徳さんが参加。

田平さんは 21 日夜のオークション (Aŭkcio) の司会をされました。

11 月 25 日(水)例会にフランスからのお客様

De 7:00 ĝis 9:00 p.m. en la 25-a de novembro (merkredo), ĉe Esperanto-Kaikan ĉeestis 8 inkluzive du gastojn el Francio. Ili estas Cedric TROLONG kaj Alice CRESKENS, junaj gefianĉoj vojaĝantaj en Japanio. Per kuŝbiciklo ili vojaĝis Ĉinion kaj de tie al Japanio per ŝipo. Post partopreno de Japana Esperanto-Kongreso en Yamanasi ili vizitas esperantistojn en la meza kaj okcidenta Japanio.

今日のお客様は、フランスから来た婚約中の若いカップル。リカンベントと呼ばれるツーリング用自転車で中国を経て船で日本へ。日本エスペラント大会 (山梨) に参加したあと、中部日本・西日本のエスペランティストを次々に訪ねています。

(相川 節子)



左から、山本、田平、森川、光川、川越、アリス、セドリック（敬称略）

第3回ボランティア・市民活動フェスタに出展

- ・日時 2009年12月20日(日)午前10時～午後4時
- ・場所 京都市勧業館みやこめっせ（京都市左京区）
- ・概要

今号の表紙を
ご参照ください。

みやこめっせ1階 第2展示場の活動紹介スペースA4にて、「エスペラントで世界へ」というテーマで展示しました。主に外国人エスペランティストとの交流風景写真を主として、国際活動のポスター、エスペラント書籍の展示とパソコンによるネット上のエスペラント講座の実演と体験をしていただきました。

開催日が年末のせいなのか、全体の入場者が少なく、エスペラントのブース前も少し寂しい状態でした。しかし熱心な若者も2～3人訪れ説明を熱心に聞いてもらえた収穫もありました。しかしこのフェスタは一般への触れ合いが出来る絶好の機会でもあり、次回も是非とも参加したいと思います。

尚、今回の出席は、光川、田平、山本、森川、中川、川越でした。後藤さん夫妻も子連れで来場して頂きました。

（川越）



2009年エスペラントまつり（関西エスペラント連盟主催）

- ・日時 2009年12月13日(日)
- ・場所 神戸市青少年センター
- ・参加者 95人
京都エスペラント会からは光川澄子さん、山本鳩江さん、津田昌夫さん、吉川奨一さん、相川節子さんの5人が参加
- ・概要
例年同まつりは地域ごとに開催していますが、今年はザメンホフ生誕150周年を記念して、合同のエスペラントまつりが企画されたものです。
最初に、寺島俊穂さんの講演「平和学からみたザメンホフ」があり、そのあと、コーラスや世界大会の報告や寸劇を楽しみました。（川越）

京都エスペラント会 2010年次総会

- ・日時：1月23日(土)午前11時～4時30分
- ・場所：エスペラント会館
- ・参加者：会員10人(委任13人)
相川節子、川越幹、後藤美和、笹沼一弘、田平正子、中川邦彦、藤本達生、光川澄子、森川和徳、山本鳩江(あいうえお順)
- ・内容
6週間のヨーロッパ旅行のお話(藤本達生さん)
'09 Jara Raporto による活動報告(川越幹さん)
2009年の会計報告(後藤美和さん)
2010年の活動計画
展示会：「みやこめっせ」の展示参加、京都府国際センターでの展示参加。
例会運営：毎週必ずエスペラント本の講読を行う。
役員改選
会長：笹沼一弘
会計：後藤美和
事務局：川越幹
会計監査：中川邦彦[新任]
広報：川越幹、光川澄子
KLEG委員：藤本達生、川越幹、笹沼一弘、森川和徳[新任]
会誌編集：(編集長)森川和徳、笹沼一弘、田平正子

<新会員の自己紹介>

野田 淳子 (のだ じゅんこ、京都市東山区)

私がエスペラント語にはじめて出会ったのは1987年のことです。

その当時「国家機密法」という法律が決められそうになり、大変なことになると思っ
て、戦時中のことを調べていましたら、宝木寛さんという青年がエスペラント語を
学んでいてとらえられ、26才で亡くなったという事実を知りました。

彼の生き方を「時を超えて」という歌にし、その中にエスペラント語を入れました。
その年の5月にはじめて歌いました。

それがきっかけになり、1990年の7月第38回関西エスペラント大会が京都で開かれ
た時にお声をかけて戴き、この歌を歌わせて戴きました。

2年程前に神奈川大和のおやこ劇場の方がこの曲をコンサートで歌ってほしいとリ
クエストして下さい、とても興味をもたれ、ちょうど神奈川で開催された世界エスペ
ラント大会に参加され、勉強もはじめられました。

私も学びたいと思っておりましたら、京都エスペラント会館の昼の級のことを知り、
昨年10月から参加、本当にうれしく楽しく学んでおります。

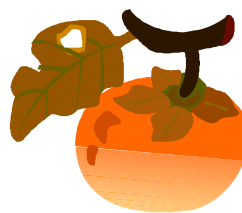
なんと20年以上前の出会いが今につながり、不思議な気持です。

高木 宣幸 (たかぎ のりゆき、京都市右京区)

昨年12月より京都エスペラント会に入会しました高木宣幸と申します。エスペラン
トには以前から興味があり、たまたま10月からの講習会に参加したのがきっかけで今
回の入会にいたりしました。

外国の方との交流は勿論ですが、まずはエスペラントの本を何冊か読んでみたいと思
っています。相川さんのお陰でサルトルの『嘔吐』を入手することが出来ました。
また、並行してエスペラント訳の聖書も読む予定です。

無神論実存主義のサルトルの著作と、聖書を同時に読むのは何か変な感じがしま
すが、自分のペースでゆっくりと進めていきたいです。これからどうぞ宜しくお願い
いたします。



Persimono

今号の特集テーマ

Kiun libron vi amas aŭ ŝatas? どの本が好きですか？

山内 利朗 さん

『NHK英語でしゃべらナイト 別冊シリーズ7 TRAVEL 英語で京都を案内できますか?』(株式会社アスコム, 2006年)

"Ĉu vi povas gvidi en Kioto per la angla lingvo?"

"Ne. Mi ne scias, pri kio interesiĝas la alilandaj turistoj en Kioto; kvankam mi antaŭe scius, mi ne povos gvidi ilin per la angla."

Antaŭ ĉio mi ne havas sufiĉan konon pri Kioto por gvidi. Mi simple loĝas en la urbo Kioto.

Hm... Por tia vi (mi) la libreto "Can you talk about KYOTO in English? (Ĉu vi povas paroli pri Kioto en la angla?)" estas tre taŭga.

La libro estas plena de multaj belaj grandaj fotoj, kaj ĉiu foto flankigas tre simplan mallongan prezentaĵon, kiu estas skribita en la angla kaj la japana.

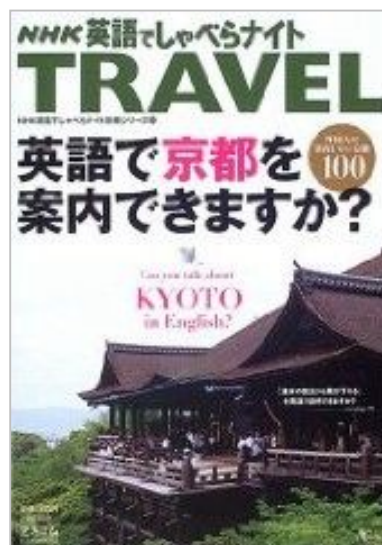
La artikoloj estas cent! Promenejo, nova kiota ejo, sukeraĵoj, manĝaĵoj, kulturaĵoj, diversaj ĉarmaj etaj iloj, spertejoj kaj temploj.

Ekzemple mi tradukas unu hazardan artikolon pri Yatsuhashi:

"Yatsuhashi estas unu tradicia Kiota kuko farita kun cinamo. Rostita Yatsuhashi estas malmola. Freŝa Yatsuhashi havas faban marmeladon (konfitaĵon?) ene de la mola past-haŭto. Unika dolĉeco kaj aromo faras Yatsuhashi-on tre populara bongustaĵo aŭ donaco por alporti al hejmo." (mi tradukis ĝin el la angla lingvo.)

Kiel vi taksas ĉi tiun libron? Hm, estas bone, ke reale vi vidus eĉ nur la enhavtabelon, ol mia prezento.

(Fino)



村上 正彦 さん : 思い出の本、印象深かった本。。

Eをはじめて10年以上ですが、本気モードになったのは通信講座のおかげです。中級のテキストは15回読みました。今でも難しい気がするので、これからも読み続けようとおもいます。一番効果を感じたのは *Ĉu vi parolas esperante?* です。10課までは数十回、11課以後は20回読みました。この本を音読したときEの文が頭をよぎるような気がしました。才能不足の僕でもそのうちペラペラ喋れるようになるって気がしました。



そのほか多数回読んだ本を列举すると(カッコ内の数字は読んだ回数です)
50 *Fabloj de Ezopo* (10) *Karlo* (ほぼ10) *エスペラント会話教室* (10)
Hanako lernas Esperanton (5) *エスペラント単語練習帳* (15) *エクスプレス エスペラント語* (旧版:ぼろぼろになるまで読みました。テープは半年か1年聞きまくりました。)・・・こんなところですか。

のプリバの文章は綺麗だとおもいました。*Vivo de Zamenhof* も同じ印象でした。は表現力のすごさに圧倒されました。の様な教科書はたくさんほしいなと思いました。は繰り返すごとに難しいなと思うようになりました。Eの怖さが分かってきたのでしょうか。。はEをはじめた頃繰り返した本です。テープ一本でヒアリングはほぼ完璧になったようです。通信講座の書き取りはほとんど苦勞しませんでした。

そのほか一部しか読んでない本ですが聖書やエロシェンコの文章はきれいやなアとおもいました。そのほか、*Paŝoj al plena posedo* は10課まで3回くらい読んだだけですが、この本が僕のEの故郷のような気がします。(なぜかはわかりませんが。)去年中にペラペラになろうと思っていましたが、ちょっと無理なようです。

今までは、基本単語の理解不足が悩みの種でしたが、少しは解消しました。特に *Baza Esperanta Radikaro* は難しいですが、機能語の理解に役立ったようです。この本の対訳か *エスエス和辞典* があったらなとおもいますが、我儘でしょうか。

語学は時間が薬とおもうので、引き続きコツコツ頑張ります。

なお、今年 *Monato* 誌と *UEA* の機関誌を購読します。

Monato 誌は10頁くらい辞書を片手に必死に読みました。とても気に入りました。。今までは単行本を読んでいましたが難しいので、こういった雑誌(単行本よりは読みやすいので)を読むべきでした。。

そのうち、ペラペラを *REVO* して頑張ります。

(終)

相川 節子 さん Vage tra la dimensioj

古い話で恐縮だが、1971年の関西エスペラント大会の記念品は、"LA KOSMOŜIPO 'EDENO n-ro 5'" というタイトルの本だった。内容はエスペラント原作のSF短編集である。この大会に参加した記憶はないので、あとでこの本を買ったのだと思う。

当時のわたしは、初心者にも毛が生えた程度の語学力で、全文エスペラントの本をスラスラ読める能力とはほど遠かった。この本も、1ページごとに10回も20回も辞書をひいたはずである。ただ、ほかの本とちがうのは、辞書をひくのが苦にならないということだった。

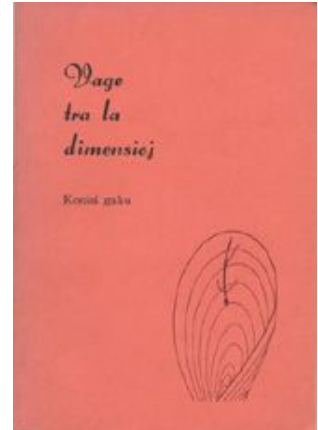
「自分の好きなジャンルの作品で、なおかつ文章の感性が自分に合う著者の本であれば、辞書をひくのが苦にならず、楽しく読める」ということを、わたしはこの時知った。その5年後、この単行本の内容にさらに作品を追加したものが、ふたたび関西大会の記念品として発行された。それが "Vage tra la dimensioj" で、今もわたしの大好きな本のひとつになっている。

余談だが、この時の関西大会の会場は京都都会館会議場だった。つまり京都エスペラント会がお世話をした大会で、六郷恵哲さんや八木幹子さんが大活躍された。

話を戻すと、この本は先に買った"LA KOSMOŜIPO 'EDENO n-ro 5'" と内容は重複している。でも好きな本なので、もう一度最初から読んだ。

"Vage tra la dimensioj"で特におもしろかったのは、最後の "La skandalo Prociono (プロキオン事件)" という小説。舞台は未来の火星共和国で、人気者の大統領が、宇宙船の発注に関して多額のワイロをもらっていて、それが発覚し・・・というストーリー。こう書くと想像がつく方がおられるかもしれない。モデルはロッキード事件だった。この作品が書かれたのは1976年、田中元首相が逮捕された年なので、まさにリアルタイムの世相を写した小説ということになる。当時世間を騒がせた「ピーナッツ百個受領」の暗号領収書も、小説の中にちゃんと出てくる。ただ、結末はリアル世界のロッキード事件とはまるでちがった、SFらしい終わり方をする。

初心者向きと称する本でも、読んでみるとむずかしすぎることはよくある。わたしにとって、Karlo はそういう本だった。一方、中級・上級向きの本でも、内容が自分の好みや感性に合えば、辞書をひきひきでも苦勞を感じることなく読める。上記2作がそれを教えてくれた。星新一のショートショートを楽しみと思える人なら、"Vage tra la dimensioj"も気に入っていただけるのではと思う。



光川 澄子 さん

1) "La Espero" L. L. Zamenhof

Unuafoje mi renkontis la poemon "La Espero"n de d-ro L. L. Zamenhof, tiam la poemo iluziis min, kvazaŭ ankaŭ mi mem staras inter la ekzaltitaj eŭropanoj en esperantista kongresejo kaj pasiajn korbatojn de ili ĉirkaŭ mi sensas. Miaj oreloj estas ĉe ĝuste tuj apud ilia koro, ĉar ili ĉiuj estas pli altaj ol mi. Kaj mi piedpinte turnis min al podio. Ho, tie mi trovis la silentan d-ron en ondegjoj de Nova Sento.

Ŝajnis al mi, ke la iluzio montris al mi, ke la animo de d-ro Zamenhof eterne vivas kaj certe vivos en ni.

2) 『長谷川テル』 一日中戦争下で 反戦放送をした日本女性一

『長谷川テル』編集委員会 編 せせらぎ出版 2007年第1刷発行 1800円

Ĉi tiu libro estis eldonita fare de kvar diversaj fakkampanoj de ne esperantistaro.

Laŭ siaj fakoj ili ĉiuj havas temon pri multaj flankoj de 長谷川 テル, 劉 仁, iliaj vivvojoj k.c..

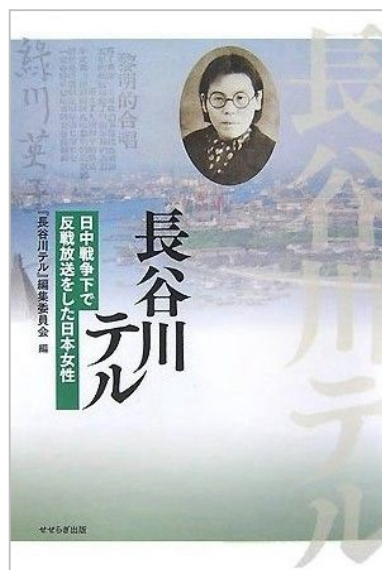
Jenaj estas kelke da freŝaj karakterizaĵoj en la libro.

Probable antaŭe neniu tiel profunde fosis 劉 仁 n en Ĉinio kaj japane publikigis lin.

La profundeco kaj la detaleco ŝuldas al la verkinto kun ĉina lingvo.

Ŝi ne nur japanajn dokumentojn de 長谷川 テル kaj 劉 仁, sed ankaŭ multe da ĉinaj esploris.

Plie ĉine ŝi tre energie intervjuis la vivantajn familianojn, la parencojn de 劉 仁 kaj aliajn ĉinojn, kaj rekte elĉerpis el ili lian vivhistorion, ĉinan tradician rutinon de geedziĝo kaj aliajn.



Due estas aldono de la milita historio inter Japanio kaj Ĉinio kun mapoj kiel la epokfondo de la du geagantaj vivoj.

La detala historio helpis min iom imagebligi al mi la danĝerege delikatan situacion de iliaj limigitaj agadoj. Ĉar mia scio pri la milito estis nure fragmenta kaj malriĉa.

Krome estas tre raraj skribaĵoj de s-ino 郭平英 (filino de 郭沫若) kaj s-ino 長谷川 暁子 (旧姓・劉 曉嵐).

Mi esperas, ke esperantistoj legu la libron por ekscii aŭ retrovi la verajn figurojn de la du troaj gekuraĝeguloj kaj la malluman epokon, kaj revas, ke ili informos pri ĝi siajn ĉirkaŭulojn kaj laŭ la onidiraondoj ne esperantistoj rimarkos nian mondon. Tio estas ankaŭ por danki la sincerajn redaktorojn, kies varmega koro al paco, al libero kaj al la du gegravuloj por nia lingvo elfluas el ĉiuj ĉapitroj de ĝi.

Ŝajnas al mi, ke ĝi donas al ni ŝancon rekonsideri, kion nun ni faru kiel esperantistoj.

Laste mi mencias unu el la redaktoroj, s-ino 澤田 和子. Ŝi konatiĝis kun s-ino 劉 曉嵐 en 1991. Tio iĝis fatala renkontiĝo por ili.

Tuj poste ŝi komencis esploradon kaj paroladon pri 長谷川 テル preskaŭ ne konata ekster esperantistaro. Okaze de la 53-a Kansaja Esperantista Kongreso en Kioto en 2005 ŝi faris la paroladon.

Sed tamen ŝi bedaŭrinde forpasis antaŭ la eldono. Poste ŝia filo anstataŭ ŝi kunlaboris kun la aliaj redaktoroj. Plej laste en ĝi estas liaj vortoj.

(fino)

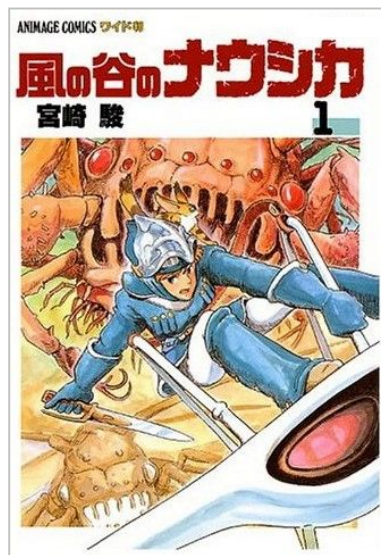


Ĉu vi ne trinku nigran teon?

森川 和徳 さん

風の谷のナウシカ (Naūsika de la Venta Valo)

Tiu ĉi serio da komiksoj estis desegnita de 1982 ĝis 1994 de Miyazaki Hayao, fame konata animacia filmisto. Ĝenerale populara komiksisto desegnas kun helpo de asistantoj, sed li sola desegnis ilin en sia hejmo post ĉiutaga laboro por animaciaj filmoj. 7 volumoj eldoniĝis kaj entue pli ol 12 milionoj da ekzempleroj vendiĝis. La 7 volumoj kostas ĉ. 3000 enojn. Mi miras, ke oni facile trovas tiujn komiksojn en libro-vendejo eĉ nun, kvankam granda amaso da komiksoj aperas kaj malaperas ĉiutage en Japanio.



En 1984 la aŭtoro bonŝance produktis la samnoman animacian filmon, kies dramo estis farita el la 1a kaj la 2a volumoj, kaj multaj filmo-kritikantoj taksas ĝin tre alte kaj la filmo gajnis iom grandan enspezon. Ankaŭ mi unuafoje konis lin kaj tuj fariĝis entuziasma amanto de liaj filmoj. Poste liaj laboroj riĉigas mian vivon.

La romano rakontas fantazian mondon damaĝitan de la homaro. En tiu mondo reĝas gigantaj insektoj kaj la restintaj homoj postvivas en malvastaj lokoj timante minacatajn venenajn fungojn. La ĉefroluloj estas du virinoj: la princinoj “Naūsika” kaj “Kuŝana”. Naūsika loĝas en la “Venta Valo” kaj ŝi estas ŝatata de ĉiuj loĝantoj, ĉar ŝi amas ĉiujn kaj estas tre afabla. Ŝi povas flugi per la ventumilo nomata “Mevo” kaj havas specialan kapablon komuniki kun la naturo. Kontraŭe alia princino Kuŝana loĝas en la batalema lando nomata “Tormekia”, kaj ŝiaj patro kaj fratoj malŝatas ŝin. Sed ŝi estas saĝa kaj inteligenta, tial la popolo subtenas ŝin. Naūsika trovas la veron de la mondo kaj provas savi la homaron kontraŭ la natura katastrofo dum la milito inter du grandaj landoj.

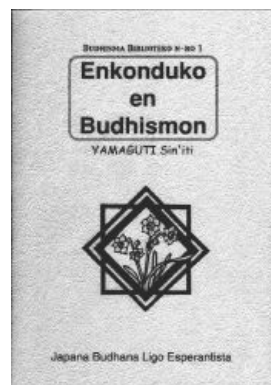
Post la elfaro de la komiksoj la aŭtoro komencis produkti la filmon “Princo Mononoke”, kaj ĝi publikiĝis en 1997 kaj gajnis la rekordan enspezon. Stranga mondo de la komiksoj certe influis la filmon.

(Fino)

後藤 美和 さん

Yamaguti Sin'iti : Enkonduko en Budhismon

「仏教入門」なんて、ふだん宗教に興味のない方なら、素通りされちゃうでしょうか！？私は文句なしに面白かったですよ。神話的な要素をとっばらって、ゴータマ・シッダールタさんという人の考えたこと、伝記、その後の展開のミソが、すっきり書かれています。でも教科書っぽい事実のラレツとはもちろん違って、著者の山口さんが大事だと思う部分を柱に、仏教という迷宮の基本構造が、すっきり見通しよくまとめられています。ときどき世界の他の思想や宗教と対比して説明してあるところも、その方面に詳しい人には魅力的だろうと思います。



私も、一応は仏教国である日本で生まれ育ったわけなので、仏教のことは身近に知っているつもりだったのですが、この本を読んで「仏教って、もともとそういうことだったの！」と感心することしきりでした。この本が日本語でも出ていたらいいなあ。

外国のエスペランティストから、仏教のことを聞かれたことはありませんか？ これを読んでおけば、基本を踏まえて堂々と！？お話できると思いますよ。さらに、そういった豆知識には終わらないで、「自分の家は代々仏教だと思ってきたけれど、あれってホントに仏教なのかしらん」などと真面目に疑問になってきたら……いっそう、読んだ甲斐のあるというものです！

Edmond Privat : Esprimo de sentoj en Esperanto

藤本さんご夫妻との勉強会で、最近読んだばかりの本、好きになりたての本です。どういうところが好きかというと、「気を楽しんでくれるところ」です。発想を転換させてくれるというか……



タイトルから想像して、「これを読めば、ちっとは感情表現が上手くなるかしらん！？」と、真面目なお勉強をするつもりで読み出したのです。そして確かに、勉強になったのですが、初めに想像したような方向にはない気がします。持ち札を増やそうと思って読み出したら、手持ちの札で大胆気楽にやる勇気を授けてもらったような。

本全体は、エスペラントが他の言語に比べてどこが特徴的で魅力なのか、喩えもた

ABZ kiel gastigi (3)

TAHIRA Masako

(H) Kiel ĉiĉeroni?

Antaŭe mi oferis la tutan tempon por ĉiĉeroni, kiam gasto turismas. Sed nun al mi mankas tempo (kaj mono). Gastiganto ne havas devon ĉiĉeroni. Anstataŭ mi ofte aliaj esperantistoj helpas min kiel ĉiĉeronoj. Mi tre dankas ilin.

Kiam neniu povas ĉiĉeroni, mi donas al gasto informilojn pri turismo, aŭtobuslinioj kun mapoj por ke li/ŝi povu mem turismi sen ĉiĉerono. Mi demandas, kien li/ŝi deziras viziti. Laŭ la deziro mi instrukcias kiel kien kiam. Kiam la gasto ekiras, se necese, mi aldonas al li/ŝi botelon da akvo por soifo, ŝlosilon de la domo por eniri domen en mia malesto, unutagan busbileton por ekonomia veturado.

Min tre interesas, se gasto havas specialan guston al iaj lokoj. Ekzemple al universitatoj, bibliotekoj, librovendejoj, nefamaj muzeoj, nekonataj lokoj. Des pli mi laŭeble akompanas la gaston. Se gasto respondas, "Ne gravas kien, sed al famekonataj vidindaĵoj", min malinteresas. Mi markas sur la mapoj kiu kiu kiu estas famekonataj turismejoj.

Ĝis nun la plej malinteresa estis al amuzejo de komputilaj ludoj laŭdezire de 15-jaraj knaboj el Usono. Mi dungis universitatan studenton por eventuale peti

くみに説明していくのが半分。あとの半分は「論理的」「規則的」というイメージの強いエスペラントだけれど、感情表現はどうしているのか、自然言語よりも本当の意味で「自然」に発想して表現できるのはなぜか、といったお話です。

話の中身も面白いんですけど、語り口もまた面白い。ノビノビ、自由な印象を受けました。講義録が基だから余計でしょうか。半ば、その語り口に触発されて、「もっと自分の発想を率直にエスペラントにできたらいいなあ」と、読み進むうちに思えてきたのです。(とはいえ、発想を素直に文章にすることによってこそ、語学力とセンスが要るんでしょうけど。)ベタベタの日本語的エスペラントでも、まあ、いいんじゃない!? 相手に伝わらなかつたら、また言い換えたらいいいんですもんネ。これまでもそうやって、エスペラントは世界の言葉に練り上げられてきたんだから!

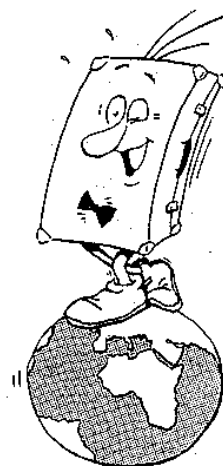
(終)

helpon al mi, ĉar mi scias nenion pri komputilaj ludoj. Mi enuis akompani ilin nur pagante ludkoston.

Kiam mi akompanas gaston al "famekonataj vidindaĵoj", okazas problemo. Iu gasto volonte pagas enirbileton ne nur por si, sed ankaŭ por mi. Mi dankas al li/ŝi. Alia gasto pagas nur por si, sed ne por mi. Tria gasto neniom pagas kaj atendas, ke mi pagu. Ŝajne estas du kialoj.

(1) Mankas mono, ĉar la gasto venis el malriĉa lando.

(2) Gastiganto pagu por gasto, ĉar tio estas moralo en la lando, el kiu la gasto venas. Laŭ mia moralo sendepende de ĉu gastiganto aŭ ĉu gasto, riĉulo pagu por malriĉulo. Sed tio ne ĉiam funkcias.



El la retpaĝo de
Pasporta Servo

Kiam mi volas ŝpari tempon, antaŭ la enirejo de vidindaĵo mi diras al gasto, "Sen mi promenu interne; ne gravas kiom da minutoj, horoj, sed mi atendos vin antaŭ la elirejo". Malkuraĝa homo havas ŝokon, kial mi ne akompanu la tutan vojon. Post la eniro de la gasto mi eksidas sur benkon aŭ eĉ surteren, legas libron aŭ skribas urĝan taskon. Por mi trankvila legejo aŭ skribejo sen komputilo, kiu ĉiam laborigas min.

Se gastas ĉe mi vidhandikapuloj/aŭdhandikapuloj aŭ tre maljunaj homoj, necesas helpi ilin en turismo por sekureco. Iam venis blindulo el Belgio. Anstataŭ vidi li volis ĉion tuŝi permane. Li eĉ enmetis herbojn kaj florojn en sian buŝon por "vidi" kiaj ili estas, kiam mi diris, ke antaŭ li floras belaj floroj. Laŭ li, vidantoj povas vidi ĉion, sed nevidantoj volas tuŝi ĉion. Sed ne ĉiuj monumentoj kaj aliaj estas tuŝeblaj por protekto kontraŭ difektiĝo, ĉu ne? Mi petis specialan permeson "tuŝe vidi" de koncerna administristo. Krome li tre ĝojis aŭdi etan muzikon ĉe akv-orgeno el akvujo kaj bambuo. Lastatempe en iuj lokoj troviĝas miniatura modelo de la tuta domo, por ke blinduloj povu tuŝe vidi. Ekzemple la templo Sanzyuusangendoo en Kioto.

Foje okazas tute ne atenditaj aferoj. Ofte esperantistoj propagandas Esperanton turismante. Aliaj turistoj rimarkas nin, kiuj parolas nekonatan lingvon. Estas bona ŝanco montri, ke Esperanto vivas.

[Epizodo 1]

Iam venis germana pastro en printempo. Ĝuste en la bona sezono de sakura bankedo sub ĉerizarboj. Homoj drinkas, manĝas, kantas, dancas, amas ĉerizflorojn. La pastro partoprenis en rondon kun ebriaj dancantoj, kiuj donacis al li sakeon, kaj gaje dancis kun ili. Ĝis tiam mi miskomprenis, ke pastroj devas esti sanktaj homoj. La drinkantoj miskomprenis, ke la pastro estas el Usono kaj parolas la anglan. Kompreneble ili eĉ en ebrio devis scii, ke la parolata inter ni estas Esperanto.

[Epizodo 2]

Iam mi akompanis koreajn junajn esperantistojn al la templo Kiyomizudera. En la aŭtobuso apud ni sidanta korea junulo havis intereson aŭdi nin, sed li dubis, ĉu niaj junuloj estas el Koreio, ĉar ni parolas en stranga lingvo. Niaj koreoj klarigis al li, kio estas Esperanto, en la korea. Ni tuj amikiĝis kaj kune turismis en la templo senpage, ĉar tiam unu el la bonzoj de la templo estis subtenanto de Esperanto kaj ĉiam donacis al esperantistoj senpagan enirbileton, se esperantistoj vizitis lian loĝejon/laborejon ene de la teritorio de la templo. Poste mi invitis la junan koreon kune manĝi vespermanĝon ĉe mi. Li estis tre kortuŝita, ĉar ĝis tiam li kredis, ke japanoj estas malbonaj homoj koloniigi Koreion kaj mortigi multajn koreojn dum la milito, sed antaŭ liaj okuloj troviĝas senkulpa japana maljunulino; ŝi ne parolas la japanan, nek la koreoj parolas la korean, sed ili parolas en la komuna neŭtrala lingvo.

[Epizodo 3]

Kiam venis franca paro, survoje en turismo ni konatiĝis kun germana junulo. Kiel kutime, mi invitis lin manĝi kune kaj eĉ dormi ĉe mi. Fakte li ankoraŭ ne rezervis hotelon, do dormis kun la francaj esperantistoj en la sama ĉambro. Por mi ne gravas gastigi ĉu du aŭ ĉu tri. En mia gastlibro li dankesprimis ne germane, sed angle, miskredante ke mi scipovas kaj Esperanton kaj la anglan. Por mi la angla estas tiom fremda kiom la germana!

[Epizodo 4]

Temas pri neesperantisto el Brazilo. Kiel invito de japana instanco li gastis ĉe mi, ĉar mi volontulas hejmegastigi neesperantistajn alilandanojn. Tiujare okazos la Internacia Junulara Kongreso en Pato Branco kaj la Universala Kongreso en Fortaleza en Brazilo. Sed mi diris al li, ke mi ne havos tempon viziti lin en

Rio-de-Janeiro, kie li loĝas. De la IJK (sudokcidente) al la UK (nordoriente) surloke oni organizis karavanon. Mi aliĝis al la karavano kaj hazarde en Rio ĝi haltis. Mi promenis manĝante bongustajn fragojn kun aliaj IJK-anoj. Surstrate iu viro demetante okulvitrojn kaj vidante mian sakon alproksimiĝis al mi kaj salutis min. Ja estis li! Hazarde li survojis al la laborejo fruvespere. En tiom grandega urbo, je tiu horo! Kia miraklo! Li rimarkis, ke mi havas Esperantan flagon sur mia sako. Aliaj IJK-anoj miskomprenis, ke ankaŭ li estas brazila esperantisto, ĉar mi tiom ĝojis kaj brakumis lin. Li certe konvinkiĝis, ke Esperanto vivas enlande kaj internacie.

[Epizodo 5]

En la sama Rio. Mi bezonis ŝanĝi monon al brazila mono kaj eniris en bankon. Post la interŝanĝo mi eraris la elirpordon kaj eliris. Antaŭ mi subite ekstaris viro. Mi kredis, ke li estas rabisto, kiu vidis min kaj intencas rabi mian monujon. Tamen li salutis min en Esperanto. Ĉu ankaŭ rabisto parolas Esperanton?! Li rimarkis mian sakon kun la Esperanta flago. Li estis brazila esperantisto, sed ne rabisto! Post mia trankviliĝo li invitis min al manĝejo de plej bongustaj glaciaĵoj en la tuta Rio. Li diris, ke mi mendu iun ajn glaciaĵon miksitajn kun iuj ajn fruktoj. Mi mendis per fingroj tiujn kaj aliajn fruktojn. Vendisto tuj miksis la fruktosukojn kun glaciaĵo. Kiel infano mi plezure manĝegis. Sed li trinkis nur akvon. Li estis senlaborulo. En la mano li havis ĵurnalon, en kiu li serĉis laboron, kaj hazarde antaŭ li mi aperis malantaŭ la banko.

[Epizodo 6]

En Pupteatra Internacia Festivalo en Zagrebo, Kroatio, mi estis kun mia filino. En la PIF pupteatristoj prezentas sian arton en Esperanto. Ni promenis bazaron en Zagrebo. Tiam junulino el budo de folklorajoj salutis nin en Esperanto. Kial? Ĉar ŝi trovis nian nomkarton de PIF sur la brusto. Ankaŭ ŝi lernis Esperanton antaŭe. Ŝi donacis al ni kelkajn varojn, ne ricevis nian pagon.

[Epizodo 7]

Mi kun miaj edzo kaj filino estis en ŝipo al Koreio. Unuafoje en nia vivo ni kune vojaĝis eksterlanden. En la ŝipo iu junulo rimarkis mian valizon kun Esperanto-glumarko kaj alparolis al ni. Li estis japana esperantisto kaj instruisto de japana lingvo en Koreio. Mi ne konis lin en japana Esperantujo, nek li min, ĉar li preskaŭ ĉiam laboras en Koreio.

[Epizodo 8]

Kiam mi marŝis en manifestacio protesti iun movadon kontraŭ homaj rajtoj, mi trovis inter la manifestaciantoj karan esperantiston el Hiroŝimo kaj loĝanta en Kioto. Ni tre ĝojis revidi nin, eble post 10 jaroj. Li tuj membriĝis al Kioto-Esperanto-Societo kaj eĉ sekretariis por kelka tempo. Li poste ree transloĝiĝis al Hiroŝimo.

[Epizodo 9]

En alia manifestacio kiam mi disdonis flugfoliojn de Esperanto kun aliaj flugfolioj al preterpasantoj, kunmarŝanto demandis min, kio estas Esperanto. Mi klarigis pri Esperanto al li kune marŝante. Li membriĝis al Kioto-Esperanto-Societo kaj eklernis Esperanton. Bedaŭrinde liaj laborhoroj estas tre malregulaj kaj ne povis daŭrigi la lernadon. Sed de tempo al tempo mi vidas lin en lia laborejo --- sur la kajo de Ŝinkansen-linio en la stacidomo JR-Kioto. Kiam alilandaj esperantistoj venas al Kioto per trajno de Ŝinkansen, antaŭ kiu mi bonvenigas ilin. Se tiam li laboras sur la sama kajo, li salutas ilin en Esperanto malgraŭ la okupateco.

Ĝojo esti esperantisto senfinas. Ne forgesu kunporti insignon, flagon, etikedon, glumarkon, T-ĉemizon ktp kiuj montras vian esperantistecon, kiam vi vojaĝas eksterlande. Neniu antaŭscias dum la vojaĝo, kie estas esperantistoj en la mondo. Pardonon, ĉar mi deflankiĝis de la temo "Kiel ĉiĉeroni?"

(daŭrigota)

<要約>

「客の受入れA B Z」 (3) 田平正子

(H) どのように観光案内するのか?

ついでのこぼれ話 1 ~ 9

(続く)

Pri Utakartoludo en novjaro

KAWAGOE Kan

En la 3a de januaro, laŭ la kutima ceremonio en la jaŝiro de Jasaka, okazis la novjara Utakartoludo, uzante Ogura cent-utaistajn kartojn.

La ludistoj inkluzive de infanoj, kiuj sin kovris per kostumo kiel nobeloj de la Heian epoko, ludis matĉon per la karto, aldoninte la brilan atmosferon de novjaro en la jaŝiro.

Tiu ĉi agado devenis de la utao, kiun ĉantis “Susanoo No Mikoto”, dio de la jaŝiro.

En ĉiu jaro, Japana Societo de utaj karto daŭrigas la eventon por popularigo de Utakartoludo, kiu alvenas okaze de la 40a datreveno en tiu ĉi jaro.

Sur la noa scenejo en la jasiro, 22 belaj ornamitaj ludistoj sidis vizaĝo kontraŭ alia, kaj prenas utakarton kiel eble plej rapide kun la krio “HAI”, kiam la supra parto de utakarto estis ĉantata.

Ogura cent-utaistaj karto estis kompilitaj de utaisto Huĝiŭara Teika en la epoko de Huĝiŭara. Iam la ludo estis tre populara en vivo, sed nuntempe junuloj ludas ne tre ofte, ĉar troviĝas aliaj diversaj ludoj kaj malfacilo en senco de la vortoj.

Se troviĝus Ogura cent-utaistaj karto tradukitaj en Esperanto, ĉiuj novjaraj kunsidoj de esperantistoj povus ludi per ili. Ĉi tio utilas plezuri, samtempe lerni malnovajn utaojn.

Feliĉe, en loko de Araŝijama en Kioto, troviĝas la tema parko nomata “Ŝigureden”, kies domo estas epikita per elektronikaj ludkarto de Ogura cent-utaistaj karto.

Mi rekomendas al la legantoj iri tien iam.





Fotis Kawagoe en strato en Kioto.

Tigro estas la animalo de la jaro 2010 laŭ la antikva ĉina kalendaro. Ĉiu jaro estas montrata de unu el dek du animaloj kaj Tigro estas la 3a animalo. La lasta jaro 2009 estis tiu de Bovo kaj la venonta estos tiu de Leporo. Mi naskiĝis en la jaro de Ŝafo. En kiu jaro el animaloj vi naskiĝis?

(Kzmo)

AI Vi Kara 次号は 100 号記念

本誌は 1974 年 12 月に創刊され、36 年後の今年 (2010 年) 夏に 100 号を迎えます。次号 100 号の特集は過去の AI Vi Kara に関するものですが、まだ具体化していません。皆さんからのお知恵をいただきたいと存じます。また、AI Vi Kara についての思い出など、皆さんからの寄稿もお待ちしております。

(編集子)

AI Vi Kara N-ro 99, eldonita en la 24a de februaro, 2010

京都エスペラント会 Kioto-Esperanto-Societo

事務局

〒600-8455 京都市下京区西洞院五条上る八幡町 537-6 エスペラント会館

電話・FAX : 075-958-2475 (川越 幹)

ブログ : http://d.hatena.ne.jp/esperanto_kioto/

電子メール : esperanto_kioto@yahoo.co.jp

会費 : 正会員 年 7,200 円 準会員 年 3,600 円

AI Vi Kara 購読費 年 1,000 円

ゆうちょ銀行(郵便)振替口座 : 01000-4-9895 口座名 : 京都エスペラント会

AI Vi Kara 編集局

連絡先 : 〒618-0071 京都府乙訓郡大山崎町大山崎尻江 13-8 森川和徳

電子メール : kz_morikawa@yahoo.co.jp

ファックス : 075-955-1627

本誌 PDF ファイル保管 : <http://cid-843fe5eeb586235d.skydrive.live.com/summary.aspx>